

# 令和4年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立田無小学校

## ●全国学力学習状況調査(小学校第6学年・中学校第3学年)

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文章表現がどのような効果をもたらすか、適切なものを選択する。	58.4%	校内研究等で「伝え合う」ことを大切にし、授業づくりを進めてきた。物語から伝わってくることを自分で考えたり、質問の意図を考えたりするなど、「伝え合い」と関わる問題の正答率が高い傾向にあった。引き続き、伝え合うことを大切にしつつ、今年度のテーマである「児童の主体性」を大切にした授業づくりを進めていく。	都平均よりも正答率が低かった問題を分析すると、間違いの原因は、児童に特定の力が身に付いていないことよりも、問われていることを十分に理解しないまま、直感で答えていることであると考えられる。教材文に照らして丁寧に考えさせる授業や、問われていることをしっかりと捉えさせてから問題解決を図る授業づくりを進めていく。
	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、筆者がどのようなことに気を付けて書いているか、適切なもの	59.4%		
	物語から伝わってくることを考え、物語を推薦する文章を完成させる。	82.8%		
	話し合いの様子の一部から、質問することによって何を知らなかったのか、適切なものを選択する。	89.1%		
算数・数学	$85 \times 21$ の答えが $1470$ より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選択する。	36.6%	都平均と比べ、図形の分野の正答率が高かった。タブレットを使い、図形を自由に動かしたり、多角形を書くためのプログラミング等を行ったりする学習をしてきた成果が表れている。基礎的な計算能力が身に付いている。こちらもタブレットを生かしたドリル学習の成果が出てきた。引き続き、タブレットを活用した授業を展開していく。	授業では、「四捨五入」をして概数にすることが多いため、正しい処理をするための「切り捨て」を選択できなかった児童が非常に多かった。また、別の問題では、分数で答えるべきところ小数で答えを出している児童も多くいた。問題の場面を考えずに数を処理していたり、数値だけで答えを判断したりしてしまっている傾向がある。問題場面を適切に捉え、解決すべき課題を意識させる授業づくりを進めていく。
	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す。	71.3%		
	$1050 \times 4$ を計算する。	97.0%		
	長方形を書くためのプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く。	89.1%		